2017 年 12 月度　建築音響研究会　開催報告

12 月度の研究会は東海市芸術劇場にて開催しました。今回，研究会後に，プロ音楽家の演奏によるホールでのミニ演奏会と施設見学会も併せて開催しました。研究会のテーマは一般で，久留米シティプラザの建築計画、久留米シティプラザの音響設計など，久留米シティプラザに関する 2 件の発表が行われました。23 名の参加者により，活発な質疑討論が行われました。さらに，研究発表の後，ミニ演奏会と施設見学会が開催されました。演奏会では，異なる座席位置で演奏を比較試聴するなど建音研ならではの企画も実施されました。施設見学会では，ザ・グランドホール，久留米座のほか，スタジオや展示室などを見学しました。全体として研究会は大変盛況でした。今後も引き続き，積極的な話題提供と研究会への多数のご参加をお願い申し上げます。

■ 開催概要

日　　時　　平成 29 年 12 月 7 日（木）13:30〜17:00
場　　所　　久留米シティプラザ 4 階 小会議室
　　〒830-0031 福岡県久留米市六ツ門町 8-1
参 加 者　　23 名

■ 発表題目および内容概要（テーマ：一般）

※以下の概要は建築音響研究会資料の「内容概要」から転載したものです

1. 久留米シティプラザの建築計画

○長谷川祥久（香山壽夫建築研究所）

【概要】久留米シティプラザの設計提案の主旨は、かつて隆盛を極めた久留米市六ツ門地区の賑わいを蘇らせ、4つの意味で拠点となるために、1）既にたくさん存在する久留米の魅力的な素材（ヒト・モノ・コト）を洗い出す、2）市民が自ら使いこなせ、地域にジャストフィットする機能と規模を持ち、且つ各ジャンルの最先端の専門的立場からの要求にも応え得る空間をつくる、3）長期的、継続的に時間の流れに耐える骨格と、絶えず成長、変化し多様な個性を受け入れる可変性・自由さを持たせる、という3つの視点である。そして、中心市街地に水平且つ立体的に展開する文化芸術・賑わいの発信源「フォーラム」をつくるとし、久留米を蘇らせるかたちの理念として、人が流れ込み回遊するかたち、賑わいと憩いが調和するランドマーク施設としてのかたち、人を集め、人とコミュニティを育てるかたちをつくることを提案した。大小複数のホールと練習施設、複数の展示室と会議室、賑わい醸成の為の広場と交流施設、さらに複数の商業施設が集積された計画である。本提案は2012年春のプロポーザルで選定された。

2. 久留米シティプラザの音響設計

○宮崎秀生、岸永伸二（ヤマハ）

【概要】平成28年4月にオープンした久留米シティプラザは、性格の異なる1,514席の大劇場、399席の中劇場、144席の小劇場と、複数のスタジオ等からなる西側の8番街区と、会議室（大、中、小）、展示室、屋外広場（街なか広場）、等からなる東側の9番街区で構成される大型の複合施設である。施設の中核となる大劇場は、劇場とコンサートホールの利点を兼ね備えた、全ての客席において良く聴こえ良く見える舞台と客席、を音響コンセプトとし、設計段階で音響シミュレーション等による詳細検討を行った。各劇場の音響設計概要を、施設の遮音・騒音制御計画と合わせて報告する。

☆建築音響研究会の別刷(バックナンバー)に関する問合先：

担当幹事（http://asj-aacom.acoustics.jp/backnumber.html）までご連絡下さい。